



令和7年1月24日
消防局予防部予防課

福岡市内で火災が多発しています

—火災予防の注意喚起をお願いします—

※令和7年1月24日 速報値

	火 災 件 数		火災で 亡くなった人
		うち建物が全焼 した火災件数	
令和5年12月1日～ 令和6年1月31日	47 件	2件	3名
令和6年12月1日～ 令和7年1月23日24時時点	54 件	7件	6名

令和6年中に発生した火災の原因は、第1位の「たばこ」から、「こんろ」、「電気機器」の順となっています。また、寒い時季はストーブなどの暖房器具を使用する機会が増えるため、暖房器具による火災にも注意が必要です。

報道機関の皆さまから、特に次の注意喚起をお願いします。

- たばこの火は確実に消す。寝たばこはしない。
- こんろの近くに燃えるものを置かない。こんろの奥に調味料などを置くと着衣着火の原因となるため、ものを置かない。
- 古くなった電気機器は使用しない。
- 寝るときは、必ずストーブを消す。

【参考】

福岡市消防局・福岡市消防団が行っている火災予防の情報発信等

- ・ホームページ、各種 SNS (LINE、facebook、Instagram) などによる情報発信
- ・消防団員による地域住民への防火広報(実施予定)

〈ホームページの情報発信の内容〉

福岡市消防局

検索

【担当】

消防局予防部予防課予防係

担当：杉野・花田

電話：725-6611

住宅における火災の原因は、大半が不注意や火の不始末によるものです。
日常生活の中のちょっとした心がけで、火災を防ぎましょう！

- ① ストープの上で、洗濯物を乾かさない。
- ② 灯油は、屋外の涼しい所に置き、古いものを使用しない。
- ③ スプレー缶や可燃物を、近くに置かない。
- ④ 寝るときは、必ずストーブを消す。

● 給油するときは、火を消す。

● 強い衝撃を受けたものや、変形したり、異常に発熱するものは、使用しない。

● 日差しなどの高温となる場所に置かない。

- ⑬ こみ箱に、直接吸い殻を捨てない。
- ⑭ 灰皿の吸い殻を溜めすぎない。
- ⑮ 寝たばこは、絶対にしない。
- 灰皿は、割れない素材のものを。

- ⑤ 可燃物を近くに置かない。
- ⑥ 火の使用中は、その場を離れない。
- ⑦ 出火時に、すぐ消せる準備をしておく。
- 衣服に燃え移らないよう気をつける。
- 調理油過熱防止装置など（SIセンサー）がついたごんろを使用する。

20 交換用のガスポンベは、火の近くに置かない。
21 衣服に燃え移らないよう気をつける。
22 並べて使用しない、鉄板でポンベ部分を覆わない。
(カセットこんろのポンベを熱しすぎないように注意)

● 経年劣化した電気製品は、使用しない。
(変な音や臭いがしたり、モーターの回転が悪いなど)

● 取扱説明書に従って使う。

● リコール製品を使用しない。

※リコールについての情報は、独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)のホームページで確認できます。
(<https://www.nite.go.jp/jiko/index.html>)

- ⑨ 可燃物を近くに置かない。
- ⑩ 火をつけたまま放置しない。
- ⑪ オイルを拭いた布などは、乾燥機で乾かさない。

- ⑫ その場を離れるときは、火を消す。
- ⑬ 可燃物を近くに置かない。
(カーテンは、防災製品を使用する。)
- ⑭ 台座は、倒れにくいものを使用する。
- 衣服に燃え移らないよう気をつける。

15 日が当たるところに、
ペットボトルや鏡
などを置かない。

- 23 コードを、家具などの下敷きにしない。
- 24 コードを束ねたり、たこ足配線をしない。
- 25 コンセントのほごりは、乾いた布などで取り除く。
- 26 配線を切ったり、つないだりしない。

● 使わないコードは抜いておく。

- ㊦ 可燃物を放置しない。
- ㊧ 物置には、鍵をかける。
- できるだけ、屋外は明るくする。
- ごみ出しの時間と場所を守る。